

『横綱土俵入りについて』

夏を迎える季節となるとやたら相撲の事が気になります。今年は特に大の里のスピード昇進・出世ということもあり、このニュースが気になっています。元々この季節になると自分の数少ないスポーツの成功体験を思い出します。中学校3年生の時、臨時の相撲部員となり、郡市大会・西尾張大会・県大会の団体戦で先鋒をつとめました。また教員となってからは、監督としてチームを率い、続けて準優勝をすることができました。そんなこともあり相撲は大好きなスポーツです。愛知県出身の横綱は何人いるかご存知ですか。正解は二人です。一人は弥富市出身の大錦、もう一人は蒲郡市出身の玉の海です。大錦は大正時代、玉の海は昭和の横綱です。愛知県出身の横綱は数が少なく、活躍した期間が短かったようです。相撲で好きなシーンは、横綱の土俵入りです。横綱土俵入りには二つの型があります。雲竜型と不知火型の土俵入りです。雲竜型の土俵入りは四股を踏んだ後、左手を胸にあて右手を伸ばしてせりあがります。不知火型の土俵入りでは、四股の後、両手を伸ばしてせりあがります。雲竜型は攻守一帯のせりあがり、不知火型は攻めのせりあがりと言われ、手の長い長身の力士には不知火型が適していると考えられます。明治までは大関が相撲の最高位でした。何か特別なことがあると大関が綱を締めたそうです。名古屋場所では大の里の雲竜型の土俵入りが楽しみです。(30日に大の里に横綱推挙状が届き、明治神宮で奉納土俵入りが行われました)

4月・5月で校区のコミュニティー協議会の総会に出席させていただきました。街づくり対する地域の皆さんの熱い思いが伝わってきました。コミュニティースクールに対する支援・協力に感謝して出席させていただいています。今後は中学校の休日部活動の地域展開で、様々な面にご協力をお願いしたいと思います。地域学校協働本部が立ち上がり、CSとなって10年目となります。今後の課題としては学校と積極的な熟議をしたいと思います。CSの啓発活動にも力を入れていれていきたいと思っています。

ネモフィラや猛暑の中の運動会

令和7年6月2日

津島市教育委員会
教育長 浅井厚視